



現代日本語接続詞研究文献一覧(上)

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-01-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 馬場, 俊臣 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.32150/00007287 |

現代日本語接続詞研究文献一覧（上）

馬場俊臣

概要

本稿は、作成者が2007年4月現在までに知り得た現代日本語の接続詞に関する研究文献（1945年以降）を示したものである。紙幅の都合により、本稿では1989年までに発表された研究文献を示す。1990年以降の文献については続篇で示す予定である。

凡例

- 1 採録範囲は、原則として次の通りである（一部例外もある）。
 - (1) 日本語の接続詞及び接続詞的機能を持つ表現に関する研究文献を対象とする。語論・文論・文連接論・連文論・文章論・談話分析等の研究領域を広く含む。日本語学・言語学以外の研究領域の研究文献も知り得た範囲で対象とする。国語教育及び日本語教育の領域での、学習指導や習得に関わる文献も知り得た範囲で対象とする。
 - (2) 現代語の接続詞に関する記述を含む研究文献を対象とする。方言等に関する研究文献は除く。
 - (3) 使用言語は日本語とする。
 - (4) 1945年以降に公刊された研究文献を対象とする。
 - (5) 学会・研究会等での口頭発表及びその要旨、事典・辞典類の項目、書評は対象から除く。日本語学及び文法論の概説書は対象から除く。
 - (6) 作成者が2007年4月現在までに知り得た研究文献を対象とする。
- 2 「接続詞」の範囲は、原則として次の通りである。
 - (1) 文と文との接続機能を持つ接続詞及び接続詞と同様の機能を果たす連語（接続語、接続語句、接続表現、複合接続詞等）を「接続詞」とする。
 - (2) 節と節との接続機能を持つ接続助詞及び接続助詞と同様の機能を果たす連語（接続語、複合接続助詞等）を主な対象とする研究文献は含めない。ただし、「接続詞」に関する記述が含まれている場合は、採録した研究文献もある。
 - (3) 文連接論・連文論・文章論・談話分析等の研究文献の採録については、作成者の判断で、「接続詞」に関する記述が一部含まれていれば採録した研究文献もある。
- 3 記載方法等は次の通りである。
 - (1) 配列は発表年順とする。同一発表年の場合は、原則として執筆者・編著者の

氏名の五十音順に配列する。

- (2) 雑誌論文は、執筆者（発表年）「論文名」『掲載雑誌名』巻号（発行元）頁番号．注記を記載する。図書掲載の論文は、執筆者（発表年）「論文名」編著者名『書名』（発行元）頁番号．注記を記載する。図書は、編著者名（発表年）『書名』（発行元）．注記を記載する。
- (3) 「注記」には内容を示すメモ及び再録図書等の情報を記したが、網羅的ではない。
- (4) 発行元が大学内の機関・学会等の場合は大学名のみ示す。雑誌名に大学名が含まれる場合は発行元を省略する。以下の雑誌は発行元を省略する。
『計量国語学』（計量国語学会） 『月刊文法』（明治書院） 『言語』（大修館書店） 『言語生活』（筑摩書房） 『国語学』（日本語学会、旧国語学会） 『国語国文』（京都大学文学部国語学国文学研究室） 『国語と国文学』（東京大学国語国文学会） 『国文学 解釈と鑑賞』（至文堂） 『国文学 解釈と教材の研究』（學燈社） 『日本語学』（明治書院） 『日本語教育』（日本語教育学会） 『日本語文法』（日本語文法学会） 『表現研究』（表現学会)
- (5) 論文集の編者名を省略したことがある（特に記念論集や講座）。
- (6) 人名以外は原則として新字体に統一する。人名についても原則として新字体に統一するが、例外的に旧字体にする場合もある。
- (7) ○付き数字は○をはずす。ローマ数字のⅠ、Ⅱ、Ⅴ等は、英字のI、II、V等とする。

付 記

本稿は、Web上で公開している「接続詞関係研究文献一覧（2007. 1. 9）」（<http://www.sap.hokkyodai.ac.jp/baba/home/setuzokusi.htm>）を増補したものである。Web公開版は随時更新を行っている。

国語教育・言語発達、日本語教育に関する研究文献の概要は、馬場俊臣（2005）「国語教育における接続詞指導・習得に関する研究文献とその概要」『札幌国語研究』10（北海道教育大学国語国文学会・札幌）、馬場俊臣（2006）「日本語教育における接続詞指導・習得に関する研究文献とその概要」『札幌国語研究』11（北海道教育大学国語国文学会・札幌）に発表している。

作成者の調査不足による採録漏れや記載内容の誤記・不備等があればご寛恕願いたい。採録漏れ・誤記等の情報を作成者までお知らせいただければ幸いである。

時枝誠記（1950）『日本文法 口語篇』（岩波書店）. 247-248頁「第四章 文章論（接続詞研究の重要性）、137-150頁「接續詞」

国立国語研究所〔永野賢〕（1951）『現代語の助詞・助動詞—用法と実例—』（国立国語研究所報告3）（秀英出版）. 接続詞も一部収載

湯沢幸吉郎（1951）『現代口語の実相』（習文社）. 310-312頁「それなのに」「それ

なのに」

- 阪倉篤義 (1952) 『日本文法の話』(創元社). 31-39頁・224-233頁・接続詞、阪倉1974
- 佐久間鼎 (1952) 『現代日本語法の研究』(改訂版)(恒星社厚生閣). 19-40頁「三接続詞の機能」、321-345頁「二〇 吸着語」、1940初版・厚生閣
- 鶴田常吉 (1953) 『日本文学原論 前篇』(関書院). 411-423頁「定位副詞」「体格助詞(格助詞)」
- 鶴田常吉 (1953) 『日本文学原論 後篇』(関書院). 364-389頁「位」(接続関係)の分類
- 永野賢 (1953) 「表現文法の問題—複合辞の認定について—」『金田一博士古稀記念言語・民俗論叢』(三省堂) 95-120頁. 複合接続詞、永野1970
- 大石初太郎 (1954) 「日常談話の接続詞」『言語生活』36 37-42頁. 大石1971
- 時枝誠記 (1954) 『日本文法 文語篇』(岩波書店). 355-361頁「文章論 五 文章の展開と接続詞」
- 森岡健二 (1954) 「志賀直哉の用字と用語」『言語生活』37 14-19頁. 志賀直哉の接続詞
- 巴野欣一 (1955) 「機能文法はなぜ行われぬか—文法指導の現状分析と今後—」『実践国語』173 (実践国語編集所/穂波出版社) 56-59, 73頁. 国語教育・言語発達、接続詞の学習
- 森重敏 (1955) 「接続副詞における助詞性副詞の成立」『国語国文』24-7 1-16頁. 複合接続詞、森重1964
- 荒正人 (1956) 「『が』(言語時評)」『言語生活』56 52頁. 接続詞「が」
- 井伏鱒二 (1956) 「「が」「そして」「しかし」—文體は人の歩癖に似てゐる—」『文學界』10-8 (文藝春秋新社) 30-32頁.
- 川端善明 (1956) 「接続関係と関係接続表現」『国語国文』25-11 86-99頁.
- 小林英夫 (1956) 「文体—しかし主として文体にいたるまでの考察—」『講座日本語 第六卷 国語と国字』(大月書店) 56-70頁. 文間文法、接続詞、接続語
- 佐伯哲夫 (1956) 「「ていねい調」について」『実践国語』186 (実践国語研究所/穂波出版社) 21-25頁. 文頭の接続詞「ですが」「ですから」「ですけど」、佐伯1976
- 田中準 (1956) 「日本語の接続法の特色—語の二重機能について—」『言語生活』52 66-72頁. 国語教育・言語発達
- 秋池敏明 (1957) 「読解指導における接続詞・代名詞(指示語)の重要性について」『実践国語』200 (実践国語研究所/穂波出版社) 30-34頁. 国語教育・言語発達、秋池1960
- 市川孝 (1957) 「文章の構造」『現代国語学II ことばの体系』(筑摩書房) 279-306頁. 接続詞の分類、市川1978
- 伊東充 (1957) 「接続詞の一考察」『国語国文学研究論輯』2 (北海道学芸大学札幌分校) 27-28頁. 卒業論文要旨
- 大田トミ子 (1957) 「学童の接続表現について—作文「運動会」の考察—」『国文学

- 攷』18 (広島大学) 69-75頁. 国語教育・言語発達
- 森重敏 (1957) 「並立副詞と群数副詞との設定」『国語国文』26-10 1-19頁. 森重1964
- 望月諄三 (1957) 「つづりかたと文法 子どもたちの文のつづけかたと気持の表わしかた」『言語生活』66 15-24頁. 国語教育・言語発達、接続詞の使用
- 市川孝 (1958) 「ことばの使い方—代名詞・副詞・接続詞—」『日本文法講座5 表現文法』(明治書院) 157-176頁. 接続詞の機能・分類、文体との関連
- 井手至 (1958) 「副用語の機能」『人文研究』9-2 (大阪市立大学) 1-23頁. 接続詞の位置付け
- 遠藤嘉基 (1958) 「接続詞が使えない」『言語生活』87 24-25頁. 国語教育・言語発達
- 黒田正二郎 (1958) 「文脈をはっきりさせること」『季刊国語教室』6 (国語教室友の会 (中央図書出版社)) 6-10頁. 国語教育・言語発達、小学校国語教科書及び児童・生徒作文の接続詞・指示語
- 塚原鉄雄 (1958) 「接続詞」『続日本文法講座1 文法各論編』(明治書院) 156-174頁.
- 林四郎 (1958) 「児童文章の言語分析」『教育研究』13-5 (東京教育大学附属小学校初等教育研究会) 33-39頁. 国語教育・言語発達、作文の接続詞、林1975
- 林四郎 (1958) 「民衆に語りかける言語—課題解決場面で使われたことばとしての選挙公報文章の分析覚え書き—」『文学』26-6 (岩波書店) 76-90頁. 接続詞の使用、林1975
- 堀田要治 (1958) 「文脈」『続日本文法講座3 文章編』(明治書院) 81-107頁. 接続語・接続詞
- 三尾砂 (1958) 『話しことばの文法』(法政大学出版局). 183-187頁・文体と接続詞の呼応
- 森田良行 (1958) 「文章論と文章法」『国語学』32 91-105頁. 接続詞の二重使用、森田1993
- 芦沢節 (1959) 「作文能力の発達過程—ひとりの児童の文章構造力を中心として—」『国立国語研究所論集1 ことばの研究』1 (国立国語研究所) 397-410頁. 国語教育・言語発達、接続詞の発達
- 生熊文雄 (1959) 「文脈の指導における接続詞—四年生の国語指導記録から—」『教育研究』14-11 (東京教育大学附属小学校初等教育研究会) 66-68頁. 国語教育・言語発達
- 市川孝 (1959) 「文章構造の考察」『国文学 解釈と鑑賞』24-7 73-78頁. 接続類型
- 遠藤嘉基 (1959) 「国語国字問題」『言語生活』90 14-15頁. 接続詞と現代人の論理的思考
- 大石初太郎 (1959) 「子どものことばの文法的乱れ」『児童心理』13-12 (児童研究会/金子書房) 40-45頁. 国語教育・言語発達、小学生作文の接続詞の誤用、大

石1971

- 倉澤栄吉 (1959) 『文法指導』(朝倉書店). 国語教育・言語発達、145-148頁「第III節小学校の文法指導の体系 (4) くつなぎことば」、小学校教科書に現れた接続詞の調査
- 桑門俊成 (1959) 『国語文体論序説』(誠信書房). 「第4章文体論の習作—堀辰雄とその周辺—」「第5章文体論から見た女流作家」、接続詞の使用
- 土田茂範 (1959) 「低学年における接続語の指導」『ことばの教育』109 (日本ローマ字教育会) 11-12頁. 国語教育・言語発達、接続詞の指導
- 永野賢 (1959) 『学校文法 文章論』(朝倉書店). 文の連接 (接続詞)
- 西山欣爾 (1959) 「接続詞の意義分類」『国語教室』85 (大修館書店) 12-19頁. 接続詞、条件的接続、列叙的接続
- 橋本進吉 (1959) 『国文法体系論』(橋本進吉著作集 第七冊) (岩波書店). 112-113頁・接続詞
- 吉田精一 (1959) 「理想と良識の文章」川端康成・白井吉見・福田清人編『現代文章講座 文章の鑑賞』(東西文明社) 134-169頁. 志賀直哉の接続詞
- 秋池敏明 (1960) 「読解指導における接続詞・代名詞(指示語)の重要性について」『実践国語教育』233 (実践国語教育研究所/穂波出版社) 194-198頁. 国語教育・言語発達、秋池1957
- 井上敏夫 (1960) 「良文発見(一)—接続詞を節約してみよう—」『国語教室』103 (大修館書店) 10-12頁. 国語教育・言語発達
- 落健一 (1960) 「接続詞について」『文法教育』1 (広島大学) 50-56頁. 所属語彙、品詞分類上の問題点等
- 永野賢 (1960) 「現代文の接続語の機能と解釈」『講座解釈と文法7 現代文』(明治書院) 133-160頁.
- 林四郎 (1960) 『基本文型の研究』(明治書院). 51-63・73-78頁・会話冒頭の「しかし」「だけど」等
- 古田拓 (1960) 「助詞・助動詞および接続詞」『教育科学国語教育』2-1 (明治図書) 1-8頁. 国語教育・言語発達、接続詞の指導
- 堀川勝太郎 (1960) 『文章の論理と読解指導—文脈展開の法則性—』(明治書院). 国語教育・言語発達
- 宮地裕 (1960) 「文脈と文法」『講座解釈と文法7 現代文』(明治書院) 55-79頁. 接続詞の機能、宮地1971
- 生熊文雄・佐藤良吉・根本今朝男・北川貞雄・萩原昭・田中光穂/鈴木敬司(文責)/文法教育研究グループ (1961) 「読解と表現の橋渡し—「接続語」の指導を中心に—」『教育科学国語教育』3-10 (明治図書) 72-79頁. 国語教育・言語発達、接続詞の指導
- 前川清太郎 (1961) 「芥川龍之介の文体」『教室の窓 中学国語』25 (東京教育研究所) 5-7頁. 接続詞の使用

- 山崎久之 (1961) 「文体と用語」『言語生活』123 34-40頁. 接続詞と文体 (「です」体・「だ」体)
- 芳賀綏 (1962) 『日本文法教室』(東京堂出版). 175-185頁 (副用言) 承前副詞・並立連体詞
- 土部弘 (1962) 「文章の展開形態—〈文脈〉と〈構成〉—」『国語学』51 33-43頁. 土部1973
- 市川孝 (1963) 「児童の文体」『児童心理』17-6 (児童研究会/金子書房) 55-61頁. 国語教育・言語発達、接続関係と発達段階
- 市川孝 (1963) 「文章論」『国語シリーズNo.57 文章表現の問題』(教育図書) 7-46頁. 文部省国語シリーズ、接続語句の機能・類型、接続詞の二重使用、市川1975、市川1978
- 教科研東京国語部会・言語教育研究サークル (1963) 『文法教育 その内容と方法』(麥書房). 国語教育・言語発達、48-49頁・220-221頁 「接続詞」「接続詞なみの語句」(複合接続詞)
- 永尾章曹 (1963) 「井伏鱒二の作品における一問題—「のだ」終止の文を中心に—」『国文学攷』30 (広島大学) 53-63頁. 接続詞と「のだ」
- 藤井文英 (1963) 「低学年国語教科書にあらわれた接続関係と形式」『研究紀要』44 (福井県教育研究所) 113-128頁. 国語教育・言語発達
- 三原長 (1963) 「教科書にあらわれた接続詞」『国語研究』42 (愛媛国語研究会) 73-79頁. 国語教育・言語発達
- 森岡健二 (1963) 『文章構成法 文章の診断と治療』(至文堂). 国語教育・言語発達、接続詞の使い方の問題点
- 渡辺実 (1963) 「現代文章の特質」『講座現代語5 文章と文体』(明治書院) 19-35頁. 現代語の特質の一つとしての接続詞の発達、「ところが」の成立
- 大石初太郎 (1964) 「省略文—話しことばにおける文の問題—」『国文学 言語と文芸』6-2 (東京教育大学) 54-65頁. 先行文の省略による接続詞 (的形式) の存在、「というわけで」「とはいうものの」「というのは」「だけど」「だが」等、大石1971
- 杉山栄一 (1964) 「接続詞」『講座現代語6 口語文法の問題点』(明治書院) 190-199頁.
- 高橋弘 (1964) 「文と文との接続関係の指導—三年生の実態を中心に—」『実践国語』298 (実践国語研究所/穂波出版社) 282-286頁. 国語教育・言語発達、接続詞
- 戸高素 (1964) 「論理的文章の読解と文法指導 論説文 中学校の場合」『口語文法講座4 読解と文法』(明治書院) 110-148頁. 国語教育・言語発達
- 長尾勇 (1964) 「芥川龍之介の文体—逆接の接続語を中心として—」『計量国語学』29 24-31頁. 接続詞
- 永山勇 (1964) 「接続語」『講座現代語6 口語文法の問題点』(明治書院) 118-132頁.
- 森重敏 (1964) 『日本文法通論』(風間書房). 並立副詞・接続副詞・複合接続詞・

森重1955・森重1957

浅野信 (1965)「水掻はその中間に生ずる—接続詞をめぐる—」『国語研究』20 (國學院大學) 1-22頁.

市川孝 (1965)「文章論の方法」『口語文法講座1 口語文法の展望』(明治書院) 112-141頁. 市川1978

市川孝 (1965)「接続詞的用法を持つ副詞」『国文』24 (お茶の水女子大学) 1-7頁. 市川1978

井手至 (1965)「一〇副用言 4 接続詞」『口語文法講座6 用語解説編』(明治書院) 293-304頁.

大窪教海 (1965)「〈中学校〉読解指導における接続語の扱い」『文学研究』22 (日本文学研究会) 52-59頁. 国語教育・言語発達、接続詞・接続助詞

清水功 (1965)「“たとへば”考—立証意識の変遷に関連して(中世から現代まで)—」『名古屋大学国語国文学』17 85-98頁. 清水1975、清水1981

進藤正邦 (1965)「「接続語」について」『山口女子短期大学研究報告』20 1-6頁.

塚原鉄雄 (1965)「接続語」『口語文法講座2 各論研究編』(明治書院) 212-236頁. 塚原2002

長田久男 (1965)「文の連接」『口語文法講座6 用語解説編』(明治書院) 38-55頁.

市川孝 (1966)「文体論と文章論」『文体論研究』8 (日本文体論協会) 32-40頁. 連接関係、接続詞、市川1978

桑原文次郎 (1966)「文の連接と呼応について」『国語科教育』13 (全国大学国語教育学会) 62-68頁. 国語教育・言語発達、連接類型

長田久男 (1966)「連文における叙述内容の反復」『論究日本文学』26 (立命館大学) 1-8頁. 長田1984

成田正雄 (1966)「(特集 数学とことば6) 括弧(カッコ)のはなし」『ことばの宇宙』1-3 (テック(東京言語研究所ラボ教育センター)) 43-50頁. 法令文の「又は」「もしくは」

土部弘 (1966)「連句と連文(二)」『学大国文』10 (大阪教育大学) 67-78頁. 土部1973

大久保愛 (1967)『幼児言語の発達』(東京堂出版). 国語教育・言語発達、75-77頁・接続詞の発達

岡村和江 (1967)「副詞および連体詞の境界—詞・辞分類との関係」『講座日本語の文法3 品詞各論』(明治書院) 241-256頁. 接続詞と副詞・連体詞との関係

佐伯哲夫 (1967)「現代文読解と文法3 接続語の機能」『講座日本語の文法4 文法指導の方法』(明治書院) 69-89頁. 佐伯1976

橋本四郎 (1967)「接続助詞と接続詞」『講座日本語の文法3 品詞各論』(明治書院) 163-177頁.

土部弘・宝示重美 (1967)「児童の文段意識」『大阪学芸大学紀要 C. 教育科学』8 145-157頁. 国語教育・言語発達、児童作文の連接類型、土部1973

- 林四郎 (1967) 「文章における文の始発・承前・転換性について」『計量国語学』39 1-18頁.
- 林四郎 (1967) 「文章における文の始発・承前・転換性について (2) (39号よりのつづき)」『計量国語学』41 1-17頁.
- 林四郎 (1967) 「文章における文の始発・承前・転換性について (3) (41号よりのつづき)」『計量国語学』42 1-17頁.
- 森田良行 (1967) 「接続詞の機能」『国文学研究』35 (早稲田大学) 14-24頁. 森田1993
- 吉成廷夫 (1967) 「接続詞「または」と「ならば」の論理的意味について」『国際商科大学論叢』1-1 74-80頁.
- 市川孝 (1968) 『文章表現法』(明治書院). 105-119頁・文の続け方
- 市川孝 (1968) 「文章研究の一課題—接続語句の省略について—」『教育科学国語教育』10-7 (明治図書) 56-63頁. 市川1978
- 小野基 (1968) 「戯作脈から欧文脈へ—接続語をとおしてみる—」『表現研究』8 45-56頁. 小野基=木坂基、木坂1976
- 栗原宜子 (1968) 「それから・すると・では」『たより』31 (日本語教師連盟) 28-36頁. (日本語教育)
- 鈴木英夫 (1968) 「「不整表現」の実態とその意識」『国語と国文学』45-2 36-48頁. 接続詞に関する不整、「しかし」
- 塚原鉄雄 (1968) 「接続詞」『月刊文法』1-1 39-43頁.
- 中村明 (1968) 「連接方式から見た文体の側面」『国語研究』26 (國學院大學) 1-12頁.
- 林四郎 (1968) 「文章における文の始発・承前・転換性について (4) (42号よりのつづき)」『計量国語学』43・44 9-25頁.
- 林四郎 (1968) 「文章における文の始発・承前・転換性について (完)」『計量国語学』45 10-29頁.
- 三尾砂 (1968) 「言語教育に立った国語教育」『Kotoba to Kurasi』2 (日本ローマ字会出版部) 1-9頁. 国語教育・言語発達、国立国語研究所1969『小学生の言語能力の発達』の接続詞調査結果に関して
- 森田良行 (1968) 「しかし—発生と展開」『ことばの宇宙』3-11 (テック (東京言語研究所ラボ教育センター)) 39-47頁. 森田1993
- 市川孝 (1969) 「文脈展開の形態」『月刊文法』1-3 95-102頁. 市川1978
- 今西浩子 (1969) 「現代作家と接続詞—安本美典氏による因子分析の上の一—」『昭和学院短期大学紀要』5 54-65頁.
- 国立国語研究所 (1969) 『小学生の言語能力の発達』(明治図書). 国語教育・言語発達、210-213頁・401-403頁ほか・接続詞使用能力の発達と問題点
- 進藤正邦 (1969) 「「文章論」における接続詞の問題」『山口女子短期大学研究報告 第1部人文・社会科学』24 31-36頁.
- 進藤正邦 (1969) 「接続語の問題」『月刊文法』1-3 45-50頁.

- 塚原鉄雄 (1969) 「連接の論理—接続詞と接続助詞—」『月刊文法』2-2 68-74頁。
- 永野賢 (1969) 『悪文の自己診断と治療の実際』(至文堂). 200-209頁・接続詞の分類
- 林四郎 (1969) 『文章表現法講説』(學燈社). 国語教育・言語発達、358-369頁「第三編作文の部分練習 第三章文に文を続ける練習 第二節承前性の文・第三節転換性の文」
- 堀田要治 (1969) 「副詞・接続詞は品詞か句か」『月刊文法』1-3 39-44頁。
- 森田良行 (1969) 「文章論のめざすもの—その効用—」『月刊文法』1-3 70-74頁。
接続詞の機能、森田1993
- (明治書院) (1970) 「特集 接続詞のすべて」『月刊文法』2-12.
- 今西浩子 (1970) 「二つの『谷崎源氏』と『源氏物語』—その接続詞の問題をめぐって—」『昭和学院短期大学紀要』6 18-27頁。
- 遠藤好英・小野基・長田久男・松井利男・村上本二郎・山口堯二 (1970) 「接続詞小辞典口語編 あるいは1 あるいは2 おまけに および が けれども・けれど さて しかし かしながら しかも したがって すると そして1・そうして そして2 そのうえ それから それで それでも・でも それとも それなら それに だが・ですが だから けれど ただし では ときに ところが ところで ないし(は) なお ならびに また または もしくは」『月刊文法』2-12 65-87頁。小野基=木坂基
- 大石初太郎 (1970) 「どうすれば?になるか 効果的な文章(悪文矯正の手帖 よりよい文章へ)」『国文学 解釈と教材の研究』15-2 142-150頁。国語教育・言語発達、接続詞の表現上の効用
- 小田島哲哉 (1970) 「接続詞の解釈—指導上のポイント—」『月刊文法』2-12 111-118頁。国語教育・言語発達
- 佐治圭三 (1970) 「接続詞の分類」『月刊文法』2-12 28-39頁。
- 佐藤孝 (1970) 「接続詞ははたして必要か」『月刊文法』2-12 104-110頁。
- 谷村能男 (1970) 「接続詞は独立語か—国語教育の立場から—」『試論』16 (武蔵野・甲南文学会) 44-47頁。
- 塚原鉄雄 (1970) 「接続詞—その機能の特殊性—」『月刊文法』2-12 10-18頁。
- 寺村秀夫 (1970) 「「あるいは」「または」「もしくは」「ないし(は)」」『講座正しい日本語4』(明治書院) 247-260頁。寺村1992
- 永野賢 (1970) 『伝達論にもとづく 日本語文法の研究』(東京堂出版). 167-191頁
「表現文法の問題—複合辞の認定について—」・永野1953、複合接続詞
- 永山勇 (1970) 「接続詞の誕生と発達」『月刊文法』2-12 19-27頁。
- 湊吉正 (1970) 「接続詞の境界」『月刊文法』2-12 96-103頁。
- 湊吉正 (1970) 「接続詞に関する三つの問題」『言語学論叢』10 (東京教育大学) 54-64頁。
- 池尾スミ (1971) 「問題点を中心とした表現の指導—3」『日本語教育研究』4 (言

- 語文化研究所) 1-10頁. 日本語教育、接続詞、接続語句「それはそうと」「それにしても」等
- 大石初太郎 (1971) 『話しことば論』(明治書院). 大石1954、大石1959、大石1964
- Hideichi, Ono (1971) 「The Teaching of the Japanese Language as a Foreign Tongue (IV)」
『東京外国語大学論集』21 139-151頁. 日本語教育、接続詞の分類
- 国立国語研究所 (1971) 「言語の表現機能と伝達効率の研究」『昭和45年度国立国語
研究所年報22』(秀英出版) 31-43頁. 国語教育・言語発達、幼児の接続詞の実態、
「それで」
- 高橋巖 (1971) 「幼稚園教師のことば—「しりとり式話法」と「鎖連歌式話法」そ
のほか—」『日本語』11-4 (国語を愛する会) 9-10頁. 国語教育・言語発達、幼
稚園教師の接続詞(そうして、そして等)の多用
- 土部弘 (1971) 「現代文法・文関係論」『講座正しい日本語第五巻 文法編』(明治
書院) 89-106頁. 接続詞の想定、土部1973
- 土部弘 (1971) 「文の関連的地位」『学大國文』14 (大阪教育大学) 64-72頁. 接続
関係、土部1973
- 宮地裕 (1971) 『文論—現代語の文法と表現の研究—』(明治書院). 210-234頁 「文
脈と文法」・宮地1960、接続詞の機能
- 渡辺実 (1971) 『国語構文論』(塙書房). 並列副詞・接続副詞
- 伊東道雄 (1972) 「文章の構成を理解させるための指導事例 (小学校二年) 文と
文との続き方に気づき指示語や接続詞の役割を理解させる」『教育科学国語教育』
14-7 (明治図書) 33-37頁. 国語教育・言語発達
- 宇都宮利久 (1972) 「論理的な文章表現力を育てるための指導—文の接続関係につ
いて—」『愛媛県教育センター教育研究紀要』28 1-14頁. 国語教育・言語発達、
接続詞の使用の実態・適切な使用
- 岡本哲也 (1972) 「日本語テキストの構造分析」『計量国語学』62 1-11頁.
- 唐木順三 (1972) 「助詞・接続詞の発音の仕方」『国語教育』14-2 (三省堂) 1頁.
国語教育・言語発達、「そうして」「けれども」「それで」
- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』(むぎ書房).
- 田中正巳 (1972) 「文章の構成を理解させるための指導事例 (小学校三年) 文と
文との接続の関係を理解させる—「春の祭り」(光村三年下)の展開をめぐって—」
『教育科学国語教育』14-7 (明治図書) 38-42頁. 国語教育・言語発達
- 鶴岡昭夫 (1972) 「「ところが」と「ところで」の通時的考察—その逆接仮定条件表
現用法の成立時期をめぐって—」『国語学』88 43-55頁. 接続詞「ところが」
- 永野賢 (1972) 『文章論詳説 文法論的考察』(朝倉書店). 文の接続(接続詞)
- 船坂民平 (1972) 「作文指導における—考察—接続詞を中心にして—」『岐阜大学国
語国文学』8 63-75頁. 国語教育・言語発達
- 堀川勝太郎 (1972) 「文章の構成を理解させるための基本的指導事項 文と文との
接続の理解のさせ方」『教育科学国語教育』14-7 (明治図書) 5-10頁. 国語教育・

言語発達

- 水谷静夫・田中幸子 (1972) 「語の並列結合子」『計量国語学』63 19-36頁. 並列接続詞
- 青木伶子 (1973) 「〈資料1〉 接続詞および接続詞的語彙一覧」鈴木一彦・林巨樹編『品詞別日本文法講座6 接続詞・感動詞』(明治書院) 210-253頁.
- 市川孝 (1973) 『国語教育のための文章論』(教育出版). 接続語句
- 井手至 (1973) 「接続詞とは何か—研究史・学説史の展望—」鈴木一彦・林巨樹編『品詞別日本文法講座6 接続詞・感動詞』(明治書院) 46-88頁.
- 京極興一・松井栄一 (1973) 「接続詞の変遷」鈴木一彦・林巨樹編『品詞別日本文法講座6 接続詞・感動詞』(明治書院) 89-136頁.
- 国立国語研究所〔大久保愛〕(1973) 『幼児の文構造の発達—3歳～6歳児の場合—』(秀英出版). 国語教育・言語発達、第2部第6章接続詞の用法
- 鈴木一彦 (1973) 「品詞分類の歴史と学説」鈴木一彦・林巨樹編『品詞別日本文法講座1 品詞総論』(明治書院) 79-131頁.
- 鈴木一彦・林巨樹編 (1973) 『品詞別日本文法講座6 接続詞・感動詞』(明治書院).
- 田上正立 (1973) 「接続詞の意味的機能について—対象の体系的分類と領域の種類—」『国語国文 研究と教育』1 (熊本大学) 81-88頁.
- 長田久男 (1973) 「連文の研究—対象と方法—」『岡山大学教育学部研究集録』37 192-179頁. 文の関連性の慣習的指標 (文の部分が指標である場合)
- 中村明 (1973) 「接続詞の周辺—同帰に属する語の文法的性格—」『ことばの研究』4 (国立国語研究所) 79-100頁. 「すなわち」「つまり」「要するに」「たとえば」「いわば」「しょせん」
- 西谷元夫 (1973) 「表現上の問題点二つ その一「…ならないさきに」 その二接続詞「そして」の用法」『解釈』19-5 (解釈学会) 45-47頁.
- 土部弘 (1973) 『文章表現の機構—国語教育の実践原理を求めて—』(くろしお出版). 土部1962、土部1966、土部1967、土部1971、土部1971
- 林巨樹 (1973) 「文章論・文論と品詞」鈴木一彦・林巨樹編『品詞別日本文法講座1 品詞総論』(明治書院) 133-162頁. 接続詞、林1976
- 林四郎 (1973) 『文の姿勢の研究 言語教育基礎論1』(明治書院).
- 森岡健二 (1973) 「文章展開と接続詞・感動詞」鈴木一彦・林巨樹編『品詞別日本文法講座6 接続詞・感動詞』(明治書院) 7-44頁.
- 矢野健太郎 (1973) 「数学とことば」『言語』2-6 2-10頁. 「または」「および」
- 吉田則夫 (1973) 「接続詞のアクセント」『日本語』13-10 (国語を愛する会) 2-4頁.
- 池尾スミ (1974) 『文章表現』(国際交流基金). 日本語教育、39-49頁・文章の展開と接続語句類、144-146頁・接続語句類その他 (文・文章の展開に関する表現)、1979第2版・1990第3版凡人社
- 氏家洋子 (1974) 「「関係づけ表現」としての「接続語」」『早稲田大学語学教育研究所紀要』12 1-16頁.

- 北原保雄(1974)「陳述副詞と接続詞と感動詞と—その構文論的位置づけについて—」『季刊 文学・語学』74 (全国大学国語国文学会) 24-38頁.
- 阪倉篤義(1974)『改稿日本文法の話』(教育出版). 39-47頁・接続詞、阪倉1952
- 清水功(1974)「逆接の接続詞と言文一致初期小説の文体—美妙・四迷を中心に—」『名古屋大学国語国文学』34 49-54頁. 清水1975、清水1981
- 長田久男(1974)「連文の諸相(2)—接続副詞の連文的職能—」『岡山大学教育学部研究集録』40 118-109頁. 長田1984
- 林四郎(1974)「文の承前形式から見た日英両語の比較」『東田千秋教授還暦記念論文集 言語と文体』(大阪教育図書) 364-374頁. 対照研究、林1978
- 水谷静夫(1974)「日本語を考える6 再び文法と意味」『Bit コンピュータ・サイエンス誌』6-6 (共立出版) 424-430頁. 並列の接続詞、「および」「または」等
- 吉田浩(1974)「説明的文章の読解能力と作文能力との接点—接続詞の働きを中心として—」『国語国文 研究と教育』2 (熊本大学) 58-65頁. 国語教育・言語発達
- 市川孝(1975)「文章論」『覆刻文化庁国語シリーズX 文章の構成・表現』(教育出版) 97-125頁. 市川1963の覆刻、接続語句の機能・類型、市川1978
- 岡田俊恒(1975)「接続詞の効用」『防衛大学校紀要』30 297-314頁. 対照研究
- 小川輝夫(1975)「接続副詞の機能」『島大国文』4 (島根大学) 30-42頁.
- 国立国語研究所(1975)「現代児童・生徒の言語能力の動態調査」『昭和49年度国立国語研究所年報26』(秀英出版) 38-62頁. 国語教育・言語発達、接続詞の発達
- 佐久間まゆみ(1975)「新聞社説における段落区分の形態的特質について」『国文』40 (お茶の水女子大学) 23-37頁.
- 清水功(1975)『文法と表現の基礎的問題—場と話材語と・文体と話線語と—』(中部日本教育文化会). 1975初版(清水1965、清水1974)、1981第二版(増補)(清水1978)
- 永尾章曹(1975)『国語表現法研究』(三弥井書店). 333-337頁「接続詞、感動詞について」
- 林四郎(1975)『文学探求の言語学』(明治書院). 国語教育・言語発達、選挙公報文章の接続詞(林1958)、小学生の作文の接続詞(林1958)
- 久松豊(1975)「選択接続詞について」『東北学院大学論集 英語・英文学』64 21-33頁. 対照研究
- 村田年(1975)「日本語における文連接について—英文法の観点から—」『木更津工業高等専門学校紀要』8 76-89頁. 対照研究
- 市川孝(1976)「副用語」『岩波講座日本語6 文法I』(岩波書店) 219-258頁. 市川1978
- 岡崎晃一(1976)「芥川龍之介の文体の基礎的研究—小説における接続詞のあとの読点—」『解釈』22-11・12 (解釈学会) 83-87頁.
- 川本喬(1976)「新情報・旧情報の表現」『講座日本語教育 第12分冊』(早稲田大学)

- 111-120頁。「だから」「それで」
- 木坂基 (1976) 『近代文章の成立に関する基礎的研究』(風間書房)、第三章第二節「戯作脈から欧文脈へ」・木坂1968
- 佐伯哲夫 (1976) 『語順と文法』(関西大学出版・広報部)、241-257頁「接続語の機能」・佐伯1967
- 坂野登・天野清 (1976) 『現代心理学双書 3 言語心理学』(新読書社)、国語教育・言語発達、230頁「だから」の発達過程、1993独立単行本発行
- 佐久間まゆみ (1976) 「段落の要約を主とした中級日本語の指導について」『日本語学校論集』3 (東京外国語大学) 138-159頁、日本語教育
- 高橋俊三 (1976) 「独話(スピーチ)における「接続のこぼし」の実態と指導—中学生独話指導の方法をさぐる—」『国語科教育』23 (全国大学国語教育学会) 20-26頁、国語教育・言語発達
- 田中寛 (1976) 「「接続詞」と基本文型」『研修』180 (財団法人海外技術者研修協会) 18-20頁、日本語教育
- 杖下隆英 (1976) 「日本語と論理 1 「そして」」『UP』5-4 (東京大学出版会) 1-6頁、
- 杖下隆英 (1976) 「日本語と論理 2 「そして」の詩と真実」『UP』5-5 (東京大学出版会) 16-21頁、
- 杖下隆英 (1976) 「日本語と論理 3 「または」」『UP』5-6 (東京大学出版会) 7-12頁、
- 長田久男 (1976) 「構文論と連文論との関係」『今井文男教授還暦記念論集 表現学論考』(今井文男教授還暦記念論集刊行委員会) 347-354頁、接続副詞、長田1984
- 中村邦夫 (1976) 「志賀直哉の文体—「暗夜行路」の文体的位置を中心に—」『佐藤喜代治教授退官記念 国語学論集』(桜楓社) 505-523頁、「しかし」「が」「—が—」三語間の使用率
- 林巨樹 (1976) 『近代文章研究—文章表現の諸相』(明治書院)、141-170頁「文章論・文論と品詞」・林1973、接続詞
- 京極興一 (1977) 「接続詞「が」—その発達と用法をめぐって—」『松村明教授還暦記念 国語学と国語史』(明治書院) 577-592頁、
- 長田久男 (1977) 「素材部の無形化表現と連文的職能」『立命館文学』379・380・381 293-307頁、長田1984
- 中村邦夫 (1977) 「芥川龍之介の文体—「しかし」「が」「—が—」三語間の使用率からみて—」『小松代融一教授退職・嶋稔教授退官記念 国語学論集』(岩手国語学会国語学論集刊行会) 81-116頁、
- 松下厚 (1977) 『日本語文法学の体系』(明治書院)、84-90頁・98-99頁・151頁・接続副詞
- 森田良行 (1977) 『基礎日本語 1—意味と使い方』(角川書店)、森田1989
- 市川孝 (1978) 『新訂文章表現法』(明治書院)、104-121頁・文の続け方

- 市川孝 (1978) 『国語教育のための 文章論概説』(教育出版). 接続語句
- 遠藤織枝 (1978) 「作文における誤用例—モスクワ大学生の場合」『日本語教育』34
35-46頁. 日本語教育、接続詞の誤用
- 菅野圭昭 (1978) 「「銀河鉄道の夜」の文体分析—換言および逆接の表現—」『解釈』
24-10 (解釈学会) 14-19頁.
- 塩澤和子 (1978) 「明治期の国定教科書—一言文—致体の成立に果たした役割—」『国
文学論集. 11 (上智大学) 117-160頁. 第1期・第2期国定読本・『口語法: 『口
語法別記』の接続詞、塩澤1991
- 清水功 (1978) 「場と話線語—「浮雲」「其面影」におけるいわゆる逆接の接続詞を
中心に—」『国語学論集 第一輯』(笠間書院) 77-96頁. 清水1981
- 鈴木一彦 (1978) 「教科文典に於ける「接続詞」」『山梨大学教育学部研究報告 (人
文社会科学)』29 21-31頁. 鈴木1979
- タマキヒデヒコ (1978) 「接続詞「および」「または」はどうして「及び」「又は」
にされたか—「新漢字表試案」の「説明資料」の「素性」について—」『カナノ
ヒカリ』674 (カナモジカイ) 2-5頁. 接続詞の仮名書き、第12期国語審議会、説
明資料
- 玉木英彦 (1978) 「接続詞「および」「または」はどうして「及び」「又は」にされ
たか—「新漢字表試案」の「説明資料」の「素性」について」『みすず』20-10 (み
すず書房) 32-35・25頁. 接続詞の仮名書き、第12期国語審議会、説明資料
- タマキヒデヒコ (1978) 「接続詞「および」「または」はどうして「及び」「又は」
にされたか」『日本語』18-9 (国語を愛する会) 6-11頁. 接続詞の仮名書き、第12
期国語審議会、説明資料
- 林四郎 (1978) 『言語行動の諸相』(明治書院). 対照研究、337-349頁「文の承前形
式から見た日英両語の比較」・林1974
- 松山市造 (1978) 「連載・母と子の文法教室 17 文と文との接続 (その1)」『国
語の授業』28 (児童言語研究会／一光社) 113-117頁. 接続類型
- 井出祥子 (1979) 『女のことば 男のことば』(日本経済通信社). 58頁・接続詞使
用の男女差
- 加留部謹一 (1979) 「文のつながり—『接続詞』の使用状況—をさぐる」『福岡教育大
学国語国文学会誌』21 22-29頁. 国語教育・言語発達
- 菅野圭昭 (1979) 「場面展開と文の接続—宮沢賢治「銀河鉄道の夜」の叙述をめぐっ
て—」『都留文科大学研究紀要』15 56-67頁.
- 坂梨隆三 (1979) 「「だのに」「なの」をめぐって」『国語と国文学』56-9 43-58頁.
- 佐久間まゆみ (1979) 「女性の論理と文章—月刊誌巻頭随筆及び入社試験小作文に
おける接続語句使用の男女比較の試み—」人間文化研究会編『女性と文化 社会・
母性・歴史』(白馬出版) 55-95頁.
- 清水功 (1979) 「場面と文体と話線語—二葉亭『平凡』におけるいわゆる逆接の接
続詞を一例として—」『松村博司先生古稀記念 国語国文学論集』(笠間書院)

- 527-537頁.
- 鈴木一彦 (1979) 「教科文典に於ける「接続詞」」『国文学論集』17 (山梨大学) 47-57頁. 鈴木1978
- 徳良一夫 (1979) 「(三学期の教材研究) 接続詞について (二文の関係)」『国語の授業』34 (児童言語研究会／一光社) 67-75頁. 国語教育・言語発達
- 長田久男 (1979) 「『連文に関する教育』の史的展開—昭和二〇年以降—」『岡山大学教育学部研究集録』50-2 328-314頁. 国語教育・言語発達
- 林四郎 (1979) 「メタ言語機能の働く表現」『文藝言語研究 言語篇』3 (筑波大学) 53-71頁. 「すなわち」「なぜなら」、林1987、(対照研究)
- Mizutani, O.・Mizutani, N. (水谷修・水谷信子) (1979) 「Ja... じゃ…… (Then...)」『Nihongo Notes2 Expressing oneself in Japanese』(The Japan Times Ltd.) 18-19頁. 日本語教育、水谷・水谷1988『外国人の疑問に答える日本語ノート1』、「では」「それじゃ」
- Mizutani, O.・Mizutani, N. (水谷修・水谷信子) (1979) 「Datte... だって…… (Because...)」『Nihongo Notes2 Expressing oneself in Japanese』(The Japan Times Ltd.) 26-27頁. 日本語教育、水谷・水谷1988『外国人の疑問に答える日本語ノート1』
- Mizutani, O.・Mizutani, N. (水谷修・水谷信子) (1979) 「Sikasi... しかし…… (But...)」『Nihongo Notes2 Expressing oneself in Japanese』(The Japan Times Ltd.) 28-29頁. 日本語教育、水谷・水谷1988『外国人の疑問に答える日本語ノート1』
- Mizutani, O.・Mizutani, N. (水谷修・水谷信子) (1979) 「To yuu-to... と いうと…… (So...?)」『Nihongo Notes2 Expressing oneself in Japanese』(The Japan Times Ltd.) 46-47頁. 日本語教育、水谷・水谷1988『外国人の疑問に答える日本語ノート2』、「という」と「というのは」
- Mizutani, O.・Mizutani, N. (水谷修・水谷信子) (1979) 「Sore-ni shite-mo... それにしても…… (Even so)」『Nihongo Notes2 Expressing oneself in Japanese』(The Japan Times Ltd.) 124-125頁. 日本語教育、水谷・水谷1988『外国人の疑問に答える日本語ノート2』、「それにしても」
- 山口仲美編 (1979) 『論集日本語研究8 文章・文体』(有精堂). 文章論研究論文7編収録、森田1958、土部1962、市川1973第IV章
- 石神照雄 (1980) 「接続詞について」『信州大学教養部紀要』14-1 1-11頁.
- 大熊徹 (1980) 「小学生の作文に見る「でも」から「しかし」への発達傾向」『月刊国語教育研究』94 (日本国語教育学会) 30-36頁. 国語教育・言語発達、井上・大熊1985
- 大塚昭夫 (1980) 「文の接続に注意させる関連指導—「秋祭り・他」—」『実践国語研究』4-3 (明治図書) 38-44頁. 国語教育・言語発達、「しかし」等
- 大村彰道・撫尾知信・樋口一辰 (1980) 「文間の接続関係明示が文章記憶に及ぼす

- 影響」『教育心理学研究』28-3（日本教育心理学会）174-182頁。国語教育・言語発達、文間の接続関係
- 北條淳子（1980）「中級読解教材における接続詞の問題」『講座日本語教育 第16分冊』（早稲田大学）20-36頁。日本語教育
- 塩澤和子（1980）「言文一致体の成立—演説速記の果たした役割（二）—」『国文学論集』13（上智大学）27-54頁。明治20年前後の演説の接続詞
- 白井英俊（1980）「文章理解と意味結合関係」『計量国語学』12-7 308-320頁。接続関係の分類
- 玉木英彦（1980）「異字同訓をこれ以上ふやさないために」『言語』9-5 2-3頁。接続詞の仮名書き
- 長田久男（1980）「並列副詞の連文的職能」『岡山大学教育学部研究集録』55 222-213頁。長田1984
- 西沢誠子（1980）「武者小路実篤の接続詞について」『昭和学院国語国文』13 88-94頁。
- 蛭田正朝（1980）「(中学年)到達基準の設定と学習のシステム化—「接続語」の指導を通して—」『教育科学国語教育』271（明治図書）41-46頁。国語教育・言語発達、接続詞の使用の実態と到達基準
- 藤友雄暉（1980）「幼児における語彙の発達の研究」『北海道教育大学紀要 第1部C』31-1 71-79頁。国語教育・言語発達、4～6歳児の接続詞
- 森田良行（1980）『基礎日本語2—意味と使い方』（角川書店）。森田1989
- 池田進一（1981）「接続詞明示と推理能力が乱脈文の多試行自由再生における体制化に及ぼす影響に関する発達の研究」『教育心理学研究』29-3（日本教育心理学会）207-216頁。国語教育・言語発達
- 江湖山恒明（1981）『国語表現論の構想』（明治書院）。105-146頁「第二 和歌の表現」、古典和歌と近代韻文・散文の接続詞使用の比較
- 清水功（1981）『文法と表現の基礎的問題—場と話材語と・文体と話線語と—』（第二版）（中部日本教育文化会）。1975初版（清水1965、清水1974）、1981第二版（増補）（清水1978）
- 高崎みどり（1981）「小説の中の会話文について」『ことば』2（現代日本語研究会）86-97頁。接続詞の出現率
- 田中章夫（1981）「接続の表現と語法」『日本語・日本文化』10（大阪外国語大学）1-21頁。田中2001
- Mizutani, O.・Mizutani, N.（水谷修・水谷信子）（1981）「Dakara…だから……（So, …）」『Nihongo Notes4 Understanding communication in Japanese』（The Japan Times Ltd.）112-113頁。日本語教育、水谷・水谷1989『外国人の疑問に答える日本語ノート3』
- 山本稔（1981）『文章表現に生きる文法指導』（明治図書）。国語教育・言語発達、学年代階別の接続詞指導等

- 大熊徹 (1982) 「第II章 言語教材研究のあり方 二 小学校における言語教材—接続詞を中心に—」『東京学芸大学公開講座I 国語科教育の教材研究』(教育出版) 74-82頁. 国語教育・言語発達
- 小野原生子 (1982) 「語の接続—何によって並列表現となるか—」『東京女子大学日本文学』58 79-92頁.
- 甲斐睦朗編 (1982) 『小学校国語教科書の学習語彙表とその指導』(光村図書). 国語教育・言語発達
- 蒲谷宏 (1982) 「「言い換え」に関する基礎的考察—「換言論」の提唱—」『国語学研究与資料』6 (早稲田大学) 70-78頁.
- 工藤浩 (1982) 「叙法副詞の意味と機能—その記述方法を求めて—」『国立国語研究所報告71 研究報告集3』(秀英出版) 45-92頁. 叙法副詞との区別、「要するに」「つまり」等
- 国家順子 (1982) 「接続詞の発達」秋山高二・山口常夫・F. C. パン編『言語の社会性と習得』(社会言語学シリーズ4・幼児言語学シリーズ4)(文化評論出版) 255-276頁. 国語教育・言語発達
- 小林一仁 (1982) 「〈国語表記のチェックポイント〉8 接続詞「及び・並びに・又は・若しくは」について—その一—」『月刊国語教育』2-2 (東京法令出版) 142-143頁. 接続詞の表記
- 小林一仁 (1982) 「〈国語表記のチェックポイント〉9 接続詞「及び・並びに・又は・若しくは」について—その二—」『月刊国語教育』2-3 (東京法令出版) 143-144頁. 接続詞の表記
- 小林一仁 (1982) 「〈国語表記のチェックポイント〉10 接続詞「及び・並びに・又は・若しくは」について—その三—」『月刊国語教育』2-4 (東京法令出版) 142-143頁. 接続詞の表記
- 小林一仁 (1982) 「〈国語表記のチェックポイント〉11 接続詞「及び・並びに・又は・若しくは」について—その四—」『月刊国語教育』2-5 (東京法令出版) 142-143頁. 接続詞の表記
- 塩澤和子 (1982) 「演説の語彙」『講座日本語の語彙 第6巻 近代の語彙』(明治書院) 149-174頁. 明治20年前後の演説の接続詞
- タマキヒデヒコ (1982) 「公用文の漢字書きとかな書きの申しあわせ」『カナノヒカリ』713 (カナモジカイ) 7-8頁. 接続詞の仮名書き
- 釣雅行 (1982) 「子どもの思考の発達と接続詞—心理学的考察をふまえて—」『富山大学国語教育』7 16-27頁. 国語教育・言語発達
- 鶴田常吉 (1982) 『日本文法学 上』(国書刊行会). 352-369頁 「定位副詞」「体格助詞 (格助詞)」
- 鶴田常吉 (1982) 『日本文法学 下』(国書刊行会). 617-634頁 「位」(連接関係)の分類、「定位副詞」(接続詞)
- 藤堂浩伸 (1982) 「文法指導の考察—小五・接続詞の指導を通して—」『愛媛国文と

- 教育』13 (愛媛大学) 42-55頁. 国語教育・言語発達
- 野村俊明 (1982) 「接続詞の獲得にみる因果的思考の発達」『東京大学教育学部紀要』21 173-181頁. 国語教育・言語発達
- 宮地裕 (1982) 「国語教育と日本語研究」川端善明他編『講座日本語学 1 総論』(明治書院) 128-154頁. 国語教育・言語発達、接続詞の指導
- 森田良行 (1982) 「II接続詞・副詞類各説」日本語教育学会編『日本語教育事典』(大修館書店) 359-366頁.
- 茂呂雄二 (1982) 「児童の文章産出一短作文における文脈形成分析の試み一」『教育心理学研究』30-1 (日本教育心理学会) 29-36頁. 国語教育・言語発達
- 池上嘉彦 (1983) 「テキストとテキストの構造」国立国語研究所『日本語教育指導参考書11 談話の研究と教育I』(大蔵省印刷局) 6-41頁. テキストの結束性と接続詞
- 教育技術研究所編 (1983) 『資料 国語教科書文例 (小学校編) 一文型・分野一』(教育社). 国語教育・言語発達
- 教育技術研究所編 (1983) 『資料 国語教科書文例 (小学校編) 一解説一』(教育社). 国語教育・言語発達
- 小出慶一 (1983) 「接続詞についての二・三の考察—その承前性・始発性について—」『アメリカ・カナダ十一大学連合日本研究センター紀要』6 1-14頁.
- 国立国語研究所 (1983) 『日本語教育指導参考書11 談話の研究と教育I』(大蔵省印刷局). 池上1983、林1983
- 小林千草 (1983) 「児童の文章における接続詞—小学一年生の場合—」『国文学 言語と文芸』94 (大塚国語国文学会/桜楓社) 119-152頁. 国語教育・言語発達
- 佐久間まゆみ (1983) 「文の連接—現代文の解釈文法と連文論—」『日本語学』2-9 33-44頁.
- 長田久男 (1983) 「国語連文論 (三) —接続副詞・並列副詞の連文的職能—」『事実と創造』24 (教授学研究の会) 32-35頁.
- 仲真紀子 (1983) 「接続詞「だから」の獲得過程—論理的推論と経験的推論における「だから」の使用の発達—」『教育心理学研究』31-1 (日本教育心理学会) 28-37頁. 国語教育・言語発達
- 林四郎 (1983) 「日本語の文の形と姿勢」『日本語教育指導参考書11 談話の研究と教育I』(大蔵省印刷局) 43-62頁.
- 林四郎 (1983) 「代名詞が指すもの、その指し方」水谷静夫編『朝倉日本語新講座 5 運用I』(朝倉書店) 1-45頁. 指示語を含む接続詞、「そうして」「それから」「そこで」「それで」
- 原口庄輔 (1983) 「疑問表現の並列」『言語文化論集』15 (筑波大学) 47-57頁. 対照研究、「また」
- Mizutani, O.・Mizutani, N (水谷修・水谷信子) (1983) 「Sorede... それで…… (And so...)」『Nihongo Notes5 Studying Japanese in context』(The Japan Times

- Ltd.) 18-19頁. 日本語教育、水谷・水谷1989『外国人の疑問に答える日本語ノート4』
- Mizutani, O.・Mizutani, N. (水谷修・水谷信子) (1983)「Sorega... それが……(That...)」『Nihongo Notes5 Studying Japanese in context』(The Japan Times Ltd.) 36-37頁. 日本語教育、水谷・水谷1989『外国人の疑問に答える日本語ノート4』
- 宮地裕 (1983)「二文の順接・逆接」『日本語学』2-12 22-29頁.
- 相原林司 (1984)『文章表現の基礎的研究』(明治書院). 第五章連接と接続語、芥川作品に見る接続語使用の推移
- 井上ひさし (1984)『自家製 文章読本』(新潮社). 74-91頁・文間の問題(接続詞)
- 加藤英司 (1984)「接続詞・接続助詞の使用頻度と日本語能力との関係」『日本語教育』53 139-148頁. 日本語教育
- 此島正年 (1984)「「もっとも」の語史」『國學院雑誌』85-12 52-60頁.
- 鈴木一彦 (1984)「修飾句と独立句と接続句」鈴木一彦・林巨樹編『研究資料日本文法 第4巻 修飾句・独立句編 副詞・連体詞・接続詞・感動詞』(明治書院) 27-64頁.
- 鈴木一彦・林巨樹編 (1984)『研究資料日本文法 第4巻 修飾句・独立句編 副詞・連体詞・接続詞・感動詞』(明治書院). 鈴木1984、田中1984、中山1984、広瀬1984
- 立尾保子 (1984)「文と文との接続意識の調査」『国語情報』15-5 (国語教育科学研究所) 6-10頁. 国語教育・言語発達
- 田中章夫 (1984)「4 接続詞の諸問題—その成立と機能—」鈴木一彦・林巨樹編『研究資料日本文法 第4巻 修飾句・独立句編 副詞・連体詞・接続詞・感動詞』(明治書院) 81-123頁. 田中2001
- 寺村秀夫 (1984)「並列的接続とその影の統括命題—モ、シ、シカモの場合—」『日本語学』3-8 67-74頁. 寺村1992
- 長田久男 (1984)『国語連文論』(和泉書院). 並列副詞、接続副詞、連用副詞、誘導副詞、素材表示部無形化表現、長田1966、長田1974、長田1976、長田1977、長田1980
- 中山緑朗 (1984)「〈資料III〉副詞・連体詞・接続詞・感動詞関係研究文献一覧」鈴木一彦・林巨樹編『研究資料日本文法 第4巻 修飾句・独立句編 副詞・連体詞・接続詞・感動詞』(明治書院) 337-345頁.
- 広瀬佳子 (1984)「〈資料II〉 2 現行国語教科書にあらわれる接続語」鈴木一彦・林巨樹編『研究資料日本文法 第4巻 修飾句・独立句編 副詞・連体詞・接続詞・感動詞』(明治書院) 319-336頁.
- 森田良行 (1984)『基礎日本語3—意味と使い方』(角川書店). 森田1989 (日本語教育学会) (1985)「特集 接続の表現」『日本語教育』56.
- 井上尚美・大熊徹 (1985)『授業に役立つ 文章論・文体論』(教育出版). 国語教育・言語発達、大熊1980

- 岩澤治美 (1985) 「逆接の接続詞の用法」『日本語教育』56 39-50頁.
- 蒲谷宏 (1985) 「文章内における言い換えについて—接続語句による言い換えを中心—」『国文学研究』85 (早稲田大学) 92-101頁. 「すなわち」「つまり」「要するに」「いわば」「たとえば」等
- 金琦 (1985) 「「すると」「そこで」「それで」「だから」 順接を表わす接続詞」『日本語教育研究論纂 在中華人民共和国日本語研修センター紀要』2 (国際交流基金) 41-47頁.
- Takahashi, Sadao (1985) 「A Study of Sentential Connectives: And, Or, But, So -English & Japanese Contrasted Part 1」『論叢 玉川大学文学部紀要』25 349-406頁. 対照研究
- 西原鈴子 (1985) 「逆接的表現における三つのパターン」『日本語教育』56 28-38頁.
- 畠弘巳 (1985) 「接続詞と文章の展開」『日本語教育』56 13-27頁.
- ひけひろし (1985) 「「そして」と「それから」」『教育国語』83 (教育科学研究会・国語部会/むぎ書房) 44-53頁.
- 森田良行 (1985) 「文章分析の方法」林四郎編『応用言語学講座 第1巻 日本語の教育』(明治書院) 103-117頁. 接続詞と文の連接・展開. 森田1993
- 安井稔 (1985) 「日本語の語感と英語の語感」『日本語学』7-8 38-42頁. 対照研究 (明治書院) (1986) 「特集 文と句の連接」『日本語学』5-10.
- 糸井通浩 (1986) 「「転換」—土部連接論に学び考える—」『国語表現研究』3 (大阪教育大学) 42-48頁.
- 大河内康憲 (1986) 「中国語の文と句の連接」『日本語学』5-10 67-75頁. 対照研究
- 佐竹久仁子 (1986) 「「逆接」の接続詞の意味と用法」宮地裕編『論集 日本語研究 (一) 現代編』(明治書院) 162-185頁.
- 柴田俊造 (1986) 「『日本語中級I』における接続語について (I)」『東海大学紀要 留学生教育センター』7 1-25頁. 日本語教育、『日本語中級I』の中で扱われる接続詞
- Takahashi, Sadao (1986) 「A Study of Sentential Connectives: And, Or, But, So -English & Japanese Contrasted Part 2」『論叢 玉川大学文学部紀要』26 245-286頁. 対照研究
- 坪本篤朗 (1986) 「andとト一文連結のプロトタイプと範疇化—」林四郎編『応用言語学講座 第2巻 外国語と日本語』(明治書院) 172-197頁.
- 永野賢 (1986) 『文章論総説』(朝倉書店). 文の連接 (接続詞)
- 永野賢編 (1986) 『文章論と国語教育』(朝倉書店). 国語教育・言語発達、文の連接 (接続詞)
- 西田直敏 (1986) 「文の連接について」『日本語学』5-10 57-66頁. 西田1992
- 林謙太郎 (1986) 「現代語における接続詞の用法 (1)」『語学研究』45 (拓殖大学) 39-48頁.

- 原田松三郎 (1986) 「「しかし」と〈可是〉—日本語と中国語の逆説を表わす接続詞について」『神戸外大論叢』37-4 63-79頁. 対照研究
- ひけひろし (1986) 「接続詞「そこで」「それで」」『教育国語』86 (教育科学研究会・国語部会/むぎ書房) 74-88頁.
- Mizutani, O.・Mizutani, N. (水谷修・水谷信子) (1986) 「Connecting two sentences (2) De,...」『Nihongo Notes7 Situational Japanese2』(The Japan Times Ltd.) 62-63頁. 日本語教育、「で」
- 柳父章 (1986) 「翻訳論からみた日本語論—鷗外・直哉の文体の意味」『言語』15-10 46-51頁. 対照研究、「and」「but」「そして」「しかし」「そうして」(明治書院) (1987) 「特集 接続」『日本語学』6-9.
- 相原林司 (1987) 「接続語句と文章の展開」『日本語学』6-9 37-45頁.
- 糸井通浩 (1987) 「レトリックの焦点 逆説の効果」『国文学 解釈と教材の研究』32-14 94-99頁. 「逆接」と「逆説」の違い
- 王海清 (1987) 「逆接語句分類の試案」『人文論究』37-1 (関西学院大学) 16-34頁. 逆接接続詞
- 蒲谷宏 (1987) 「日本語読本に関する文章論的一考察」『早稲田大学語学教育研究所紀要』34 52-65頁. 日本語教育、『日本語読本』の接続詞調査
- 木坂基 (1987) 「近代文学の接続語」『日本語学』6-9 65-83頁.
- 北條淳子 (1987) 「中級段階における文型について」ICU日本語研究室編『あすの日本語教育の道を求めて—ICU日本語教育30周年—』(凡人社) 33-36頁. 日本語教育 (接続詞含む)
- 北條淳子 (1987) 「中級文法およびその教授法」ICU日本語研究室編『あすの日本語教育の道を求めて—ICU日本語教育30周年—』(凡人社) 51-54頁. 日本語教育 (接続詞含む)
- 北條淳子・今田いずみ・才田いずみ (1987) 「討議 (中級文法の教授法について—段落の接続指導について—)」ICU日本語研究室編『あすの日本語教育の道を求めて—ICU日本語教育30周年—』(凡人社) 40-41頁. 日本語教育 (接続詞の指導法)
- 京極興一 (1987) 「『学問のすゝめ』の文章と接続詞」『日本語学』6-9 56-64頁.
- 佐久間まゆみ (1987) 「段落の接続と接続語句」『日本語学』6-9 46-55頁.
- 佐治圭三 (1987) 「文章中の接続語の機能」山口明穂編『国文法講座 第六巻』(明治書院) 127-154頁.
- 佐藤恭子 (1987) 「接続詞の分類について」『名古屋学院大学外国語教育紀要』16 51-58頁.
- 佐藤恭子 (1987) 「接続詞のテキスト読解機能に関する一研究」『KELT (Kobe English Language Teaching)』3 (神戸大学) 43-58頁. 国語教育・言語発達
- 橋豊 (1987) 「「接続」研究の現在と問題点」『日本語学』6-9 4-12頁.
- 土井真美 (1987) 「説明付加型の連文の構造と機能」『日本語と日本文学』7 (筑波大学) 10-19頁. 接続詞の想定が難しい二文の接続関係

- 長友和彦・迫田久美子 (1987) 「誤用分析の基礎研究 (1)」『教育学研究紀要 第一部』33 (中国四国教育学会) 144-149頁. 日本語教育、接続詞の誤用
- 早川勝広 (1987) 「言語習得における「接続」の問題」『日本語学』6-9 104-112頁. 国語教育・言語発達
- 林謙太郎 (1987) 「現代語における接続詞の用法 (2)」『語学研究』49 (拓殖大学) 19-33頁.
- 林四郎 (1987) 『漢字・語彙・文章の研究へ』(明治書院). 327-351頁 「メタ言語機能の働く表現」・林1979、「すなわち」「なぜなら」、(対照研究)
- ひげひろし (1987) 「「それで」「だから」「したがって」」『教育国語』88 (教育科学研究会・国語部会／むぎ書房) 46-59頁.
- 森田良行 (1987) 「文の接続と接続語」『日本語学』6-9 28-36頁. 森田1993
- 吉田則夫 (1987) 「国語教科書の接続語」『日本語学』6-9 95-103頁. 国語教育・言語発達
- アントニオ・ルイズ・ティノコ (1988) 「「デハナク」の論理について」『言語学論叢』6・7 (筑波大学) 13-24頁. 「しかし」
- 市川貞男 (1988) 「一葉文体考—『たけくらべ』と『にぎりえ』の接続詞をめぐって—」『解釈』34-10 (解釈学会) 25-37頁.
- 市川保子 (1988) 「接続詞の用法と文脈展開—作文指導のための一試案—」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』3 175-185頁. 日本語教育
- 伊藤俊一・阿部純一 (1988) 「文章理解における接続詞の働き」『心理学研究』59-4 (日本心理学会) 241-247頁.
- 遠藤織枝 (1988) 「話しことばと書きことば—その使い分けの基準を考える—」『日本語学』7-3 27-42頁.
- 菅野圭昭 (1988) 「随筆教材の研究 4 構成と文の接続を学ぶ—黒井千次「現在進行形の夢」の表現」『月刊国語教育』8-4 (東京法令出版) 130-135頁. 国語教育・言語発達
- 小林千草 (1988) 「接続詞と文連接—小学二年生の場合—」『日本語研究』10 (東京都立大学) 73-85頁. 国語教育・言語発達
- 柴田俊造 (1988) 「『日本語中級I』における接続語について (II)」『東海大学紀要 留学生教育センター』8 33-51頁. 日本語教育、『日本語中級I』の中で扱われる接続詞
- 田中章夫 (1988) 「接続の表現と語法 (II)」『日本語・日本文化』14 (大阪外国語大学) 1-19頁. 田中2001
- 中津燎子 (1988) 『BUTとけれども考』(講談社).
- 長友和彦・迫田久美子 (1988) 「誤用分析の基礎研究 (2)」『教育学研究紀要 第二部』34 (中国四国教育学会) 147-158頁. 日本語教育、学習者の接続詞の誤用率
- 中野芳江 (1988) 「教材の核となる「けれども」「わずか」に着目した発問と授業—

- 大竹政和「大陸は動く」の場合—(小学校五年) 長田久男編『国語とその授業—岡山大学停年退官記念論集』(和泉書院) 374-387頁. 国語教育・言語発達
- 仲真紀子(1988)「接続詞「だけど」の使用に見られる推論枠組みの利用とその発達」『教育心理学研究』36-3(日本教育心理学会) 220-228頁. 国語教育・言語発達
- 水谷修・水谷信子(1988)「だって……(Because...)」『外国人の疑問に答える日本語ノート1 ことばと生活』(ジャパントイムズ) 192-193頁. 日本語教育、Mizutani, O.・Mizutani, N. 1979
- 水谷修・水谷信子(1988)「しかし……(But...)」『外国人の疑問に答える日本語ノート1 ことばと生活』(ジャパントイムズ) 194-195頁. 日本語教育、Mizutani, O.・Mizutani, N. 1979
- 水谷修・水谷信子(1988)「それにしても(Even so)」『外国人の疑問に答える日本語ノート2 ことばと自己表現』(ジャパントイムズ) 109-110頁. 日本語教育、Mizutani, O.・Mizutani, N. 1979
- 水谷修・水谷信子(1988)「じゃ……(Then...)」『外国人の疑問に答える日本語ノート1 ことばと生活』(ジャパントイムズ) 181-183頁. 日本語教育、Mizutani, O.・Mizutani, N. 1979、「では」「それじゃ」
- 水谷修・水谷信子(1988)「という……(So...?)」『外国人の疑問に答える日本語ノート2 ことばと自己表現』(ジャパントイムズ) 5-7頁. 日本語教育、Mizutani, O.・Mizutani, N. 1979、「というのは」
- 横林宙世(1988)「中級学生の作文に表れた接続表現について」『Sophia International Review』10 70-74頁. 日本語教育
- 横林宙世・下村彰子(1988)『外国人のための日本語例文・問題シリーズ6 接続の表現』(荒竹出版). 日本語教育(教材)
- 横山紀子(1988)「文の接続—そしてその想定に必要な補足語句の分析—」『日本語教育論集(日本語教育長期専門研修報告)』5(国立国語研究所日本語教育センター) 102-124頁.
- 北野浩章(1989)「「しかし」と「ところが」—日本語の逆接系接続詞に関する一考察—」『言語学研究』8(京都大学) 39-52頁.
- 国立国語研究所[北條淳子・森田良行](1989)『日本語教育指導参考書15 談話の研究と教育II』(大蔵省印刷局). 森田1989
- 小林典子(1989)「「そして」による接続詞の接続類型」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』4 19-31頁.
- 佐久間まゆみ(1989)「文章の統括と要約文の構造特性」佐久間まゆみ編『文章構造と要約文の諸相』(くろしお出版) 184-228頁. 要約文と接続表現(接続詞)
- 信太知子(1989)「接続語と独立語」北原保雄編『講座日本語と日本語教育4 日本語の文法・文体(上)』(明治書院) 276-301頁.
- 趙慧欣(1989)「現代日本語の接続副詞の研究—「しかし」「ところが」「でも」の働きについて—」『岡山大学国語研究』3 83-97頁.

- 鄭亨奎 (1989) 「中国人に対する日本語教育の一考察—接続表現の誤用例の分析を中心に—」『教育学研究紀要 第二部』34 (中国四国教育学会) 119-123頁. 日本語教育、接続詞、文体の誤り
- 栃木由香 (1989) 「日本語学習者のストーリーテリングに関する一分析—話の展開と接続形式を中心に—」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』5 159-174頁. 日本語教育、物語展開に伴う接続形式 (接続詞、接続助詞等)
- 中田敏夫 (1989) 「国語教科書接続詞にみる男女差」『金沢大学語学・文学研究』18 6-17頁. 国語教育・言語発達
- 長田久男 (1989) 「連文の成立による文章の構造の記述方法」『岐阜女子大学国文学会会誌』18 1-17頁. 接続副詞
- 長友和彦・迫田久美子 (1989) 「誤用分析の基礎研究 (3)」『教育学研究紀要 第二部』35 (中国四国教育学会) 173-183頁. 日本語教育、学習者の接続詞の誤用率
- 比毛博 (1989) 「接続詞の記述的な研究」言語学研究会編『ことばの科学2』(むぎ書房) 49-108頁.
- 水谷修・水谷信子 (1989) 「だから…… (So, …)」『外国人の疑問に答える日本語ノート3 ことばと相互理解』(ジャパントイムズ) 203-205頁. 日本語教育、Mizutani, O.・Mizutani, N. 1981
- 水谷修・水谷信子 (1989) 「それで…… (And so…)」『外国人の疑問に答える日本語ノート4 ことばとコミュニケーション』(ジャパントイムズ) 49-50頁. 日本語教育、Mizutani, O.・Mizutani, N. 1983
- 水谷修・水谷信子 (1989) 「それが…… (That…)」『外国人の疑問に答える日本語ノート4 ことばとコミュニケーション』(ジャパントイムズ) 69-70頁. 日本語教育、Mizutani, O.・Mizutani, N. 1983
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』(角川書店). 森田1977、森田1980、森田1984
- 森田良行 (1989) 「II 連文型」『日本語教育指導参考書15 談話の研究と教育II』(大蔵省印刷局) 113-202頁. 日本語教育、接続語による展開の形式化、森田1993